

教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	自治医科大学	申 請 分 野 (系)	医療系
教育プログラムの名称	新時代の地域医療学を創る人材の包括的養成		
主たる研究科・専攻名	医学研究科医科学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 小澤 敬也		

[教育プログラムの概要]

本学は、医療に恵まれないへき地等における医療の確保・向上を図るため、昭和47年に全国の都道府県が共同して設立した学校法人により設置された大学であり、地域において総合的な保健医療福祉活動に従事できる医師・看護師の養成を目的としている。

我が国におけるへき地等の地域医療の現状は、多くの要因が重なり、質的・量的に深刻な状態に陥っており、崩壊の危機に瀕している。その原因として考えられるのが、科学技術が加速度的に進展する中、地域において最新の医療レベルを維持することが困難になってきていること及び医療を支える人材の不足が医師等の負担を過重にさせていることの2点である。

これらの問題点を改善するために本教育プログラムでは、①地域医療を科学的に体系化し、新時代にふさわしい地域医療学として確立させ、地域医療に従事する若手医師が大学と密接に連携できるシステムを構築すること、②地域医療学を理解する様々な人材を活用して、地域医療をチームとして対応することを目的としている。これにより、新時代の地域医療学を確立し、地域医療のリーダーとなる医師やメディカルスタッフを体系的に養成する。

本学では、昭和53年の博士課程設置以来、地域医療の中で自らが見出した課題をテーマに研究を進める者を多く受入れ、再び、地域に送り出し、地域医療と大学院教育のバランスを確保している。平成17年度には、地域医療学系専攻（博士課程）の取り組みである『地域医療学の研究者養成』が文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択され、学位取得へと導くカリキュラムの充実をはかり、地域医療オープン・ラボを設置し地域医療からの課題を研究に結びつける体制を整備し、これに応じて地域の現場において学生を指導する学外講師制度を開始した。

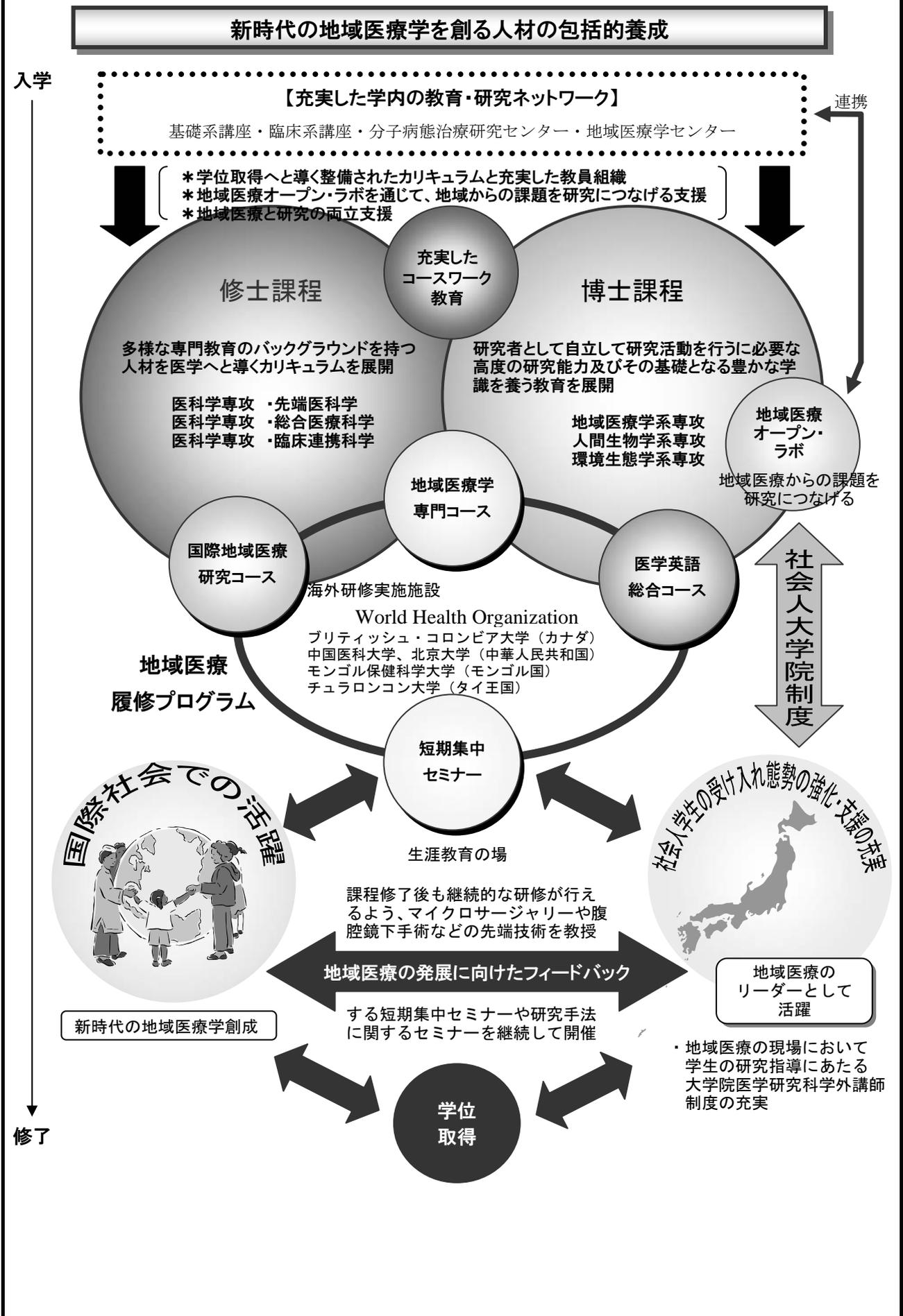
本プログラムにおいては、医師とチームを組んで地域医療の現場で活躍する人材（介護・移植コーディネーター、臨床心理士、疫学・統計学者など）の養成を行っている修士課程にも、取り組みの枠を拡大して、これまでのノウハウをもとに、海外も視野に入れた有機的なネットワーク作りを行い、新しい地域医療学の確立に向けて大学院教育の一層の充実を推進するものである。

本プログラムを可能にするのが、本学独自の教育・研究のネットワーク・システムである。学内においては、基礎系講座、臨床系講座、分子病態治療研究センターや地域医療学センターなどの組織が密接に連携し、各人の研究テーマの自由な展開を補助している。また、本学医学部卒業生は、地域において総合的な保健医療福祉活動に従事しており、大学と地域の連携強化、地域における研修、フィールドワーク、共同研究を可能としている。更に、平成17年度より開始した「地域医療学の研究者養成」事業中、社会人の受け入れ態勢を発展・強化し、地域医療の第一線で活躍する医師やメディカルスタッフが、実際の現場で捉えた問題点をテーマとして、働きながら研究を行えるよう支援する。働きながら研究を行えるように支援する一環として、課程修了後も継続的な研修が行えるよう、マイクロサージャリーや腹腔鏡下手術などの先端技術を教授する短期集中セミナーや研究手法に関するセミナーを開催する。これにより、地域医療に従事しながら、最先端の医学を学ぶことが可能となり、研究マインドの活性化を図ることができる。

これらのネットワークに加え、本学では、ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）と学術交流を推進しており、学生・教員の相互研修を行っている。また、中国医科大学（中華人民共和国）、モンゴル保健科学大学（モンゴル国）及びチュラロンコン大学（タイ王国）から大学院において学生として受け入れており、既に課程修了者が母国に戻って教員や研究者として活躍している。国際保健医学や熱帯医学などの日本国内だけでは十分な研究が行えない分野において、交流を行っている大学の協力のもと、海外研修を行う。大学院学生が海外研修を行うことにより、地域医療に対する広い視野を獲得することができ、我が国の地域医療学の発展へのフィードバックが期待される。

本学大学院では、日常の地域医療における問題を科学のレベルで解決しようとする考え方を身につけた医療従事者を育成し、新時代の地域医療学を確立することを最終的な目標としている。

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、大学院を地域で働く医師のみでなく、コメディカルまで広げようとする試みが独創的であり、「魅力ある大学院教育」イニシアティブ及び21世紀COEプログラムで整備した地域拠点の活用も実現すれば機能すると思われる。ただし、修士課程における入学者の発掘という点等で組織的取組の充実が望まれる。

教育プログラムでは、卒業生のネットワークを活用した大学と地域の連携による教育、学生の研究成果の発表など全学的、組織的な展開が図られ、プロセス管理も良好であり、これらを基盤とし、今後の成果と展開が期待できるが、コメディカルスタッフの人材養成への取組等については、更なる計画の実現性に向けた具体化が望まれる。